

部局名： **文明動態学研究所**

部局長名： **松本 直子**

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
文学部および社会文化科学研究科の教育に協力し、授業を開講する。また、指導教員、副指導教員として学生指導を行う。	関連する 年度計画の番号 [25-1] [74-1]	学部・大学院で授業を開講し、卒業論文、修士論文の指導を行った。理化学的な手法を用いた研究指導も行き、文学部優秀卒業論文賞を受賞した指導学生もいる。
②研究領域		研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
人文社会科学を核とした分野横断的研究による文明動態学の創造により、持続可能な社会の構築に貢献するという当研究所の目的を果たすべく、以下の取組を実施する。 ①学際・融合領域における新しい研究プロジェクトや研究グループの創成支援及び海外研究機関との連携強化を行う。 ②若手研究者の育成および研究力強化を目的として、国際研究プロジェクトを実施する。 ③構成員の研究進捗状況を共有するため、研究セミナーを定期的に企画・開催する。 ④研究成果を地域社会、国内外に向けて発信する。	関連する 年度計画の番号 [38-1]	以下の取組を実施し、当研究所の目的である文明動態学の創造と持続可能な社会の構築に向けて着実にスタートを切った。 ①分野を超えた研究プロジェクトを募集し、10件を採択して新たな研究グループ創生を支援した。グアテマラのデルバジェ大学との研究連携協定を締結した。 ②コロナ禍のため海外渡航はできなかったが、メキシコ、グアテマラでの若手研究者、大学院生を含む国際共同研究の準備を整えた。 ③8月を除き毎月RIDCマンスリーセミナーをオンラインで開催した。セミナーには毎回30人前後から多いときは100人の参加があり、分野を超えた研究進捗状況の共有を推進した。 ④研究所のウェブサイト、Facebookにより、研究活動を国内外に発信した。また、オンライン・ジャーナル『文明動態学』を図書館のリポジトリを利用して創刊し、日本語・英語で分野を超えた研究成果を発表する場を構築した。また、我が国の文明形成史上重要な岡山県倉敷市榑築遺跡の報告書を刊行し、図書館のリポジトリでも公開して広く活用できるようにした(公開後2か月で1000件を超えるダウンロード)。パリ第1大学傘下の出版社CEMCAと当研究所の共同出版で生物考古学の国際的論文集を刊行した。
③社会貢献(診療を含む)領域		社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
①研究成果を広く社会に還元するため、公開講座、公開シンポジウムを開催する。 ②文化財の保護・活用を推進するため、地域社会や関係諸機関と連携する。	関連する 年度計画の番号 [47-1]	①研究所開設記念キックオフシンポジウム「パンデミックと文明－感染症と向き合う過去から未来へ」をハイブリッド開催し、山陽新聞、朝日新聞、日本経済新聞に取り上げられた(録画をYoutubeで公開)。第4回国際マヤシンポジウム「テオティワカンとマヤ」をオンライン開催し、21か国402人から参加登録があった。国際シンポジウム「瀬戸内地域を事例として ニューノーマルとインターローカルネットワーク」をオンライン開催した。公開講座「マヤ文明とテオティワカン遺跡」を企画、実施した(3回中1回はコロナのため中止)。 ②人間文化研究機構を中心とする歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業に参加し、地域歴史資料の保全と活用の実践・教育プログラムの開発を行うとともに、倉敷市をはじめとする自治体と連携した被災資料の修復活動を実施した。また、備前市との連携・協力協定に基づき、BIZEN中南米美術館の収蔵資料を用いた研究・商品開発、備前市で出土した縄文土器のデジタル復元研究などを進めることとなった。
④管理運営領域		管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
①効率的かつ効果的な部局運営に向けて、必要な規定を作成し、組織整備を行う。 ②本研究所が目指す分野横断的・国際的研究を推進するため、活発な意見交換ができる組織づくりを行う。 ③分野横断的共同研究プロジェクトのインキュベーションに対して、戦略的に予算を割り当てる。 ④国際的研究者の客員研究員、客員教授等としての参画を通して、研究組織の活性化・国際化を図る。	関連する 年度計画の番号	①来年度からの埋蔵文化財調査研究センターとの統合に対応するため、研究所の組織・人事等に係る規定・内規を改定・新設し、効率的かつ効果的な部局運営ができる体制を整えた。 ②教授会その他、マンスリーセミナーの企画運営、オンラインジャーナル『文明動態学』の企画編集などにより、活発な意見交換を行い、分野横断的・国際的研究を推進する組織を構築した。 ③分野横断的共同研究プロジェクトのインキュベーションに研究所予算の約3割を戦略的に割り当て、新たなプロジェクトを10件採択した。 ④アリゾナ州立大学とのクロスアポイントメントにより国際的研究者である杉山三郎を特任教授として迎え、カリフォルニア大学リバーサイド校、メキシコ国立自治大学、チューレン大学、エルサルバドル共和国国立教師教育研究所から客員研究員の参画を得て、国際的な研究拠点形成を進めた。